



# む け げ 無 憂 華

浄土真宗本願寺派正念寺  
常陸太田市久米町20-1  
発行：正念寺護持会

電話：0294-76-2058  
FAX：0294-76-0169

## 正 念 寺 々 報 百 号 を 振 り 返 っ て

前住職の時代(昭和53年8月)から始まった「寺報」ですが、46年経ってついに百号になりました。最初の数年間は、年に一回の発行で、その後年二回発行になり、平成三年以降は原則年三回の発行になりました。第1号を読んでみると、第三回念仏奉仕団の報告や第九回寺院巡りの募集などがあり、どちらもしばらく出来ていないなあ、と少し寂しさを覚えた事です。

1号から見直してみると、レイアウトや文字の大きさなど、見やすいようにと徐々に変更していったように思えます。ただ、文字が多いので、読んでいて疲れるのでは無いかとずっと思っていました。その理由がわかったのは、前住職から現住職に編集を任されてしばらくした頃です。実は、写真を少し多く使うと、料金が跳ね上がったのです。それを知った為、何とか料金を抑えて発行する方法は無いかと考えて、64号からしばらくはカラーコピー機を使った正念寺での自家発行を続けました。その為、カラー写真を使えるようになり、料金的にも半額程度になりましたが、紙面を二つ折りにする手間などもあり、余計な作業も増えたことでした。

その様なこともあり、料金の安い印刷所を探していたところ、他のお寺のご門徒さんから、教えていただいた印刷所を使うようになりました。その後更に、東京の印刷所に代えて現在に到ることですが、一番大きな変化は、縦書きから横書きに変更したこととカラー写真を使うようになったことでしょう。白黒だけより、色がついているだけでも目を引くとは思いません。少しでも目を引いて、それが読むという形に繋がれば有り難いことだと思っております。ご門徒の皆さまが、せっかく出していただいた護持会費を使っていることですから、受け取ってそのまま仏壇にしまわれてしまうことは、避けたいとも思いますので、出来るだけ読んでいただけるような努力を今後もしていきたいと思えます。

現在は、ホームページでも寺報を読むことも出来るようになっておりますので、ご門徒の皆さまは勿論、ご門徒以外の方も読めるようになっております。ホームページや寺報などを通して、寺とご門徒、そして寺に

いらっしゃる全ての人と繋がるようになれば有り難いと思っております。そういった思いも含めて、『お寺でライブ!?!』と言うイベントや『マイレー寺カード』なども取り入れ、少しでも多くの方に寺に来ていただく機会を設けるような企画を行っております。

新型コロナ感染症が落ち着いてきた今だからこそ、再び多くの人においでいただけるような寺を目指したいと考えております。その為にも、まずは報恩講スタンプラリーの復活を目指して近隣のお寺と相談していきたいと思えます。更には皆さまの知恵をお貸しいただきながら、色々とチャレンジしていきたいと思えます。



寺報1号

お  
釈  
迦  
様  
の  
ご  
生  
涯

(第9回)※仏教の教えを開かれたお釈迦様(仏陀)のご生涯を書いていきます。

お釈迦様の生涯 女性の出家(マハー・パジャーパティー)(その1)

お釈迦様のお弟子達は、男性ばかりではありませんでした。女性の出家者もおりました。その最初の女性の出家者となった方は、お釈迦様の母が亡くなった(出産後一週間ほどで亡くなったと言われている)あと、甥のシッダールタを実の母のように育てたとされる、妹のマハー・パジャーパティー・ゴータミー(摩訶波闍波提)でした。マハー・パジャーパティーは、姉のマーヤと共にシュッドーダナ(浄飯王)の元に嫁いだとされており、姉がシッダールタを産んだ後直ぐに亡くなったため、姉のマーヤの代わりにシッダールタを育てたと伝えられております。そして、マーヤが亡くなった当時のマハー・パジャーパティーの年齢については、13歳位と想定されています。

お釈迦様は、悟りを開かれてからおよそ13年後に生まれ故郷のカピラ城に戻りますがその時に、異母兄弟となるスンドラ・ナダ(孫陀羅難陀・阿弥陀経には「難陀」)を出家させました。釈尊50歳前のこととなりますが、この難陀の母親が、マハー・パジャーパティーになります。

多分この頃のことと思われませんが、マハー・パジャーパティーは自分で紡いだ糸で、自ら織った布を釈尊に布施したいと申し出ましたが、釈尊は「私個人にするのではなく僧伽に布施をなささい」と断ったという話も伝わっております。マハー・パジャーパティーが、釈尊に布施したいと願い出たその気持ちには、自分が養母となって育てた甥(釈尊)が、悟りを開かれてふるさとに凱旋されて非常に誇らしい、と言うような気持ちもあったのかもしれませんが。

そして、難陀が出家した後の、さらに布を布施したいと願い出た後のことと考えられますが、マハー・パジャーパティーも釈尊の元を訪れ、500人のカピラ城の女官と共に出家を願い出ました。しかし釈尊は「女性が多く男性が少ない家は興隆しない」として、彼女らの出家を許さず、多分にその願いから離れるために、カピラ城から別の場所に移りました。しかし、その後もたびたび釈尊の元を訪れ出家を懇願しました。それでも釈迦は、出家することを許しませんでした。

ある時、精舎の外でマハー・パジャーパティーらが疲れ果てて泣いている様子を見て、阿難は同情して、釈尊に女性の出家を許すように言いました。しかしそれでも釈尊は、女性の出家を認めませんでした。そこで阿難は、マハー・パジャーパティーが釈尊の養母であり、大変大きな恩がある事を説きますが、釈尊は「マハー・パジャーパティーに三帰依と五戒を授けたのだから、彼女も私に恩がある」としましたが、とうとう八敬法を守る事を条件に女性の出家を許します。阿難はこれをマハー・パジャーパティーに伝え、マハー・パジャーパティーは八敬法を守ると誓って比丘尼となりました。



八敬法とは：細かなことは省略しますが、男性出家者である比丘と女性出家者の比丘尼との接触を極力少なくするために設けられたと思われる八つの規則のこと。異性を気にして修行に身が入らなくなる不安要素を少しでもなくすために設けられたもの。

## 聞法会員募集のお知らせ

隣に掲載中の【お釈迦様のご生涯】は、昨年までの聞法会で勉強した内容になります。現在は、お釈迦様が話された言葉に最も近いとされる「阿含経」について勉強しています。

今年からしばらくは、この阿含経を勉強していきますが、普段の生活の中で不思議に思うことや疑問に思うことなどがあれば、いつでも質問していただければ、回答するようにしております。また、椅子と机を使って行っておりますので、足のしびれなどを気にせず、是非沢山の方のご参加をお待ちしております。

## 感謝録

前回の発表に間に合わなかった方を掲示させていただきます。

いつもお仏供米を寄進いただき、大変感謝しています。

那珂市

片岡 満 様

※ 記載されていない方がおりましたら、ご連絡ください。

### 清掃奉仕作業参加者 令和6年10月29日(火)

常陸太田市

井坂 豊子様 井坂 暢郎様

井坂 ヨシエ様 坂内 愛子様

佐藤 のり子様 永山 正文様

那珂市

匿名様

### 仏具磨き奉仕参加者 令和6年11月12日(火)

常陸太田市

猪口 治三様 井坂 友之様

井坂 ヨシエ様 坂内 愛子様

佐藤 のり子様

那珂市

橋本 貢 様

※ 間違い等がありましたら、ご連絡ください。

## お寺でライブ 花祭りコンサート!?

来たる4月6日(日)に花祭りコンサートが行われます。毎年好評な中で開催しておりますが、今年もきっと楽しいコンサートになることと思います。

歌手は、昨年までと同様天下井朱美様にお願いしております。

## 記

日時 令和7年 4月6日 14時～

場所 正念寺本堂にて

## ホームページのご案内

正念寺のホームページでは、今までの寺報やちょっとした仏教の話、寺の縁起などもあります。浄土真宗本願寺派正念寺で検索すると表示されます。

スマートフォンなどからは、右記QRコードを読み込んで下さい。



また、ホームページからYouTubeの正念寺チャンネルへも行けますので、今までの花祭りコンサート等を是非お楽しみ下さい。

## これからの行事予定

3月20日(木)11時～	久遠廟法要
4月 6日(日)14時～	花祭りコンサート
4月 8日(火) 9時半～	聞法会
5月 8日(木) 9時半～	聞法会
6月 8日(日) 9時半～	聞法会
6月23日(月)10時～	炊上法要
7月 8日(火) 9時半～	聞法会
7月29日(火) 7時～	境内掃除
8月 5日(火)13時半～	仏具磨き
8月 9日(土)10時～	歓喜会(那珂地区)
14時～	〃 (太田地区)



大谷派岡崎別院



妙好人 善九郎翁

唯円房墓地(奈良・立興寺)



## 住職雑感

正念寺寺報も100号を迎えました。寺報は、昭和・平成・令和と3時代に渡って繋ぐことが出来ました。お陰様で寺報は繋ぐことは出来ましたが、一番問題である人口の流出などは、寺で防ぐことの出来るような事無く、正念寺に限らず何処の寺院でも「寺の消滅」という不安を持っております。75年後の2100年には、日本の人口が現在の半分以下(6000万人以下)と言う統計が出てます。しかも、東京・大阪・名古屋という三大都市圏へ人口が集中するという事ですので、田舎から人が消える、と言ってもおかしくない状態になるでしょう。そうなった時に、どうすれば寺院を存続させることが出来るのか？そういうことを真剣に考えなければならない時代に入っていると思います。次の住職の時代、あるいはその次の住職の時代に、正念寺が存在出来るような「種」を蒔く事が、今大事な時代となっていると思います。